

# 令和5年度中予地方局予算事業成果表

## 1 基本事項

- (1)事業名 「媛かぐや」産地育成事業
- (2)事業期間 令和5年度～令和7年度
- (3)所 管 農林水産振興部 農業振興課 地域農業育成室 伊予農業指導班
- (4)予算額 1,198千円

## 2 事業目的

県育成さといも品種「媛かぐや」は(図1)、良食味で加工適性に優れ、収益性が高いものの現状では種苗供給量が少なく、これまでの栽培方法では規格を揃えるのが難しいことから、栽培面積が伸び悩んでいる。

そこで、安定生産技術の普及を図るとともに、加工事業者等と連携した需要創出に取り組むことで、水稻転作高収益モデルを確立し新たな産地を育成する。

## 3 主な取組(何をしたか)

### (1) 産地育成推進会議の開催(3回)

- 新規栽培農家の確保や安定生産技術の確立と普及、加工事業者等と連携した需要創出について協議するとともに各関係機関での情報共有を図った。

### (2) 栽培体系の構築

- セル育苗技術を導入するための講習会を開催するとともに、安定生産を目的とした混植栽培の実証ほを設置した。
- 生育状況に応じた現地栽培検討会を開催した。

### (3) 需要創出

- 一次加工業者の掘り起こしによる流通体制の構築や食品加工業者(3社)へのサンプル提供等を行った。
- 商品開発につなげる先進加工事例調査や消費者ニーズ調査として青果での試験販売を行った。また、認知度向上と今後の流通方法について検討した。



図1 産地化を進める「媛かぐや」

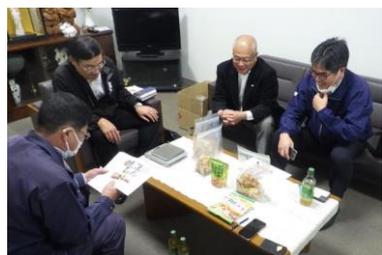


図2 加工業者との商談

## 4 成果(何がどう変わったか)

- 新規栽培農家3戸(4a)を確保、管内栽培農家は7戸(前年度:4戸)、栽培面積は6a(前年度:2a)に増大した。
- セル苗の密植栽培により、さといもの規格の均一化が図れた。
- 他品種との混植により倒伏の軽減や初期生育が促進することが実証され、今後の安定生産技術として普及していく。
- JA系統販売の新規取扱品目に位置づけられ、加工事業者を開拓(1社)し、流通体系を構築した(図2)。また、食品加工業者のうち1社が商品化に興味を示し、一定量が提供できる段階で商品開発・販売を検討・調整することとなった。
- 先進加工事例調査により、流通形態および販売方法として菓子原料等への利用が示唆された。また、青果での試験販売により「媛かぐや」の認知度が向上した。